

丹鶴叢書

濱松中納言物語
一上



6 7 8 9 10^{18m}1 2 3 4 5 6 7 8 9 20^{18m}1 2 3 4 5 6 7 8 9 30^{18m}1 2 3





丹鶴叢書 戊申帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

濱松中納言物語一上

孝子のうつゆき ゆくわれあひそらす
なまこもやまくらへうまくうへとくらやま
あみのうなととあみきあみ風よもあみけ
けりくねうねかなもかくうあみく
ももつおーのうひといとくすまつ七月上の

夜半一本

夜半
未

濱松

いつの事どもすまつむとよひふ
そよはあくまぬほどのせんへゆうて
内裏の兼顧殿よりとこすりのままで
まゐるゝもの十のれ三十のまつたまのう
がくらへくらへくらへくらへまうねぢか
中納戸のあつせむとひらじまうをくい
あくまくはくらへくらへたせくまう口布も
ひやうのまくらあくらのおもへきあよひも
とくらへりへりへりやうじまくらへ
まくらへんまくらへんまくらへんまくらへ

卷之三

一上六

むへおもむかひの風も風
もそへの林が風けとひるて
追ふゆきあつたるをさへせんやう
とくめのま中納だらかにゆきのま中納
さるちの風とれどもかくはなほ
うふとのぬまのわざひのま

濱松

風葉旅 濱松中納言

おじくせ

卷八十一 同上

4

子鳥

卷之三

一上
七

丹雀書

一上八

まゆのゆきけりくみなーぬこもる
すみのゆきまゆやくこもるもゆら
ゆれのゆきなーおゆかゆくよひゆら
がゆけうゆかゆくよひゆら
うゆけうゆかゆくよひゆら
あゆけうゆかゆくよひゆら
本のゆけうゆかゆくよひゆら
もゆけうゆかゆくよひゆら
はゆけうゆかゆくよひゆら
うゆけうゆかゆくよひゆら

もくたゆけりくみなーぬこもる
すみのゆきまゆやくこもるもゆら
ゆれのゆきなーおゆかゆくよひゆら
がゆけうゆかゆくよひゆら
うゆけうゆかゆくよひゆら
あゆけうゆかゆくよひゆら
本のゆけうゆかゆくよひゆら
もゆけうゆかゆくよひゆら
はゆけうゆかゆくよひゆら
うゆけうゆかゆくよひゆら

子雲集

一
上
十

かくはんせきひのとくわくをうけたまふ
それよりのくわくをうけたまふ
ちく

文庫本

丹雀書

一上士

とせよとひてはく、この店十人の方
うよとひてはく、この店十人の方
やうとひてはく、のまきとひてはく、
モレとひてはく、おまかとひてはく、
たかのくわく、一やうとひてはく、
さんとひぬやうとひてはく、おととひ
くわくとひてはく、おまかとひてはく、
おまかとひてはく、おまかとひてはく、
なんとひぬとひてはく、おまかとひてはく、
おもとひてはく、おまかとひてはく、

おまかとひてはく、たかとひてはく、
やまくとひてはく、
モレとひてはく、おまかとひてはく、
しゆくとひてはく、おまかとひてはく、
れとひてはく、おまかとひてはく、
くわくとひてはく、おまかとひてはく、
たかとひてはく、おまかとひてはく、
うとのとひてはく、おまかとひてはく、
がおまかとひてはく、

かのうのうながすがあつたま
りはもとくらむるをうながすれども
りうながすがうながすがうながすのうながす
やうがうながすがうながすがうながすのうながす
まんじゆのうながすとうながすとうながすのうながす
あやひらうもおほがくうながすとうながすと
あやひらうもおほがくうながすとうながすと
おほがくうながすとうながすとうながすと

まづおおきにさへうなづかむよ
あらなむとしゆく一ひめあるくらむ
もへるはれをぬけやう日ともえど
ちつともせんじゆがくもむかへうせば
あはれのとおほい
みでておこすよとくわくわくのよ
夕年めぐらすよとくわくわくのよ
なづくやまくのよとくわくわくのよ
ふのくよとくわくわくのよとくわくわくのよ

中納言もおまへて御風の御事
も御手の御事と申すが御事
の御事たゞおまへて御事
おまへて御事の御事と申すが
ゆくは御事と申すが御事
の御事の御事と申すが御事
おまへて御事と申すが御事
おまへて御事と申すが御事

ましむとほへうかくまくひあへり引くは
アトヨモ九ふのめくみもたるもあへりせき
くがくまのせまうてまくとれくおもえは
中納ものくまんはとほへうされまく
もあきまくまくみくわいゆきのまく
あきまくまくとなほくまく三まういよ
とすくやくまくもくもくまくかくまくまく
ぬくまくとくまくまくまくまくまく
やくまくまくもくまくまくまくまく
くわくまくまくまくまくまくまく

ましむとほへうかくまくひあへり引くは
アトヨモ九ふのめくみもたるもあへりせき
くがくまのせまうてまくとれくおもえは
中納ものくまんはとほへうされまく
もあきまくまくみくわいゆきのまく
あきまくまくとなほくまく三まういよ
とすくやくまくもくもくまくかくまくまく
ぬくまくとくまくまくまくまくまく
やくまくまくもくまくまくまくまく
くわくまくまくまくまくまくまく

もとまつりにわからぬ事はもとよりあらへぬ
くやは是をたゞうる事のうへてまつりてば
せんほもとくわゆる事のうへてとぞくせんこと
あくしむまくはんじゆほじあるをさか
えくはゆくへおやせよふかくもとくせん
あくしむくわゆくへおやせよふかくもとくせん
神めきくわゆくへおやせよふかくもとくせん
一きゆくやくわゆくへおやせよふかくもとくせん
せんほもとくわゆる事のうへてとぞくせんこと

卷之三

一
九

おほきよしのまへるかのうたをうたつてゐる
ちーと、のうたつてゐる、おもむくはまほそえ
まくわらひとひやかなうたをうたつてゐる
ほのかなうたをうたつてゐる、とひまほそえ

やひやるなまうたをうたつてゐる、
拾遺百番哥合せ番右中納言

風葉旅 濱松中納言
哥合せ
風葉旅 濱松中納言
哥合せ

のうたをうたつてゐる、おもむくはまほそえ
のうたをうたつてゐる、おもむくはまほそえ
けあひーとひやかなうたをうたつてゐる
あひーおひーとひやかなうたをうたつてゐる

のうたをうたつてゐる、おもむくはまほそえ
のうたをうたつてゐる、おもむくはまほそえ
なれほーとひやかなうたをうたつてゐる
えまくわらひのうたをうたつてゐる、おもむく
まくわらひとひやかなうたをうたつてゐる、
あひーとひやかなうたをうたつてゐる、おもむく
アホださるうたをうたつてゐる、おもむく
もまくわらひとひやかなうたをうたつてゐる
えまくわらひとひやかなうたをうたつてゐる、
うるさみのねもまかやかなうたをうたつてゐる

子雀書

一上
九

本
風葉春上 濱松中納言

風葉春上 濱松中納言

月度表一
江水行

賓公

丹烏長書

戶宿書

一上
七二

あくまでさういふのをきかぬがよ

おもかげのとくあやめのうらは、
おもかげのとくあやめのうらは、

卷之三

卷之三

せうの一本

卷之三

卷之二

一の事とおもひてやうすまことに
一本

卷之三

تَعْلِمُونَ مَا لَمْ تَرَوْنَ وَلَا تَرَى مَا فِي
أَعْنَانِكُمْ وَلَا يَرَى أَنفُسُهُمْ

毛氏之子也。其子曰毛遂。遂之兄也。

मनुष्यान् विद्युत्तमसा विद्युत्तमसा विद्युत्तमसा

卷之三

（三本）一本

卷之三

卷之三

まつめのむかしむかしのうきのうき
くわんがくわんのうきのうきのうき
あのかわらわらわらわらわらわらわら
なまくらなまくらなまくらなまくら
ほくらほくらほくらほくらほくら
なまくらなまくらなまくらなまくら
くわんがくわんがくわんがくわんが
にゆかのゆかのゆかのゆかのゆか
やくらやくらやくらやくらやくら
くわんがくわんがくわんがくわんが

うきのうきのうきのうきのうきのうき
ちのうきのうきのうきのうきのうき
もやくらやくらやくらやくらやくら
くわんがくわんがくわんがくわんが
やくらやくらやくらやくらやくら
くわんがくわんがくわんがくわんが
あのかわらわらわらわらわらわらわら
ほくらほくらほくらほくらほくらほく

戶宿書

一上
七四

卷之三

一上 八五

丹雀書

一上

九六

卷之三

卷之三

八
一
本

尹雀書

一上 八七

中
國
文
字
的
發
展
歷
史
上
的
變
遷
和
其
他
方
面
的
研
究
成
果
也
是
一
個
很
重
要
的
方
面
。

子雀書

一上 三十

二位の子幼きむづかしの處
より人月のあつまつておのれのま
はおもひへばくよどみとてうよどり
もきのちる人月にそへうのまおき
ほきア花をせんじてあらわゆるのを
き半くひあきくわせたまつよのま
がくあくわせたまつよの月をみてあひ
ておもひぬも内のおもひあらわゆる
おもひのま

くたるのゆゑにかのやうのうへりのと
一いはりしはまくらのとくとも
ちゆうへてひだりたてゆるのとくとも
のゆゑのかよひをまちゆるのとくとも
きののとくとも

あまよのとくとも
じゆうのとくとも
ふしきとくとも

たま
本

日

あまよのとくとも
あまよのとくとも

横松

くたるのゆゑにかのやうのうへりのと
一いはりしはまくらのとくとも
ちゆうへてひだりたてゆるのとくとも
のゆゑのかよひをまちゆるのとくとも
きののとくとも
あまよのとくとも
じゆうのとくとも
ふしきとくとも

たま
本

ヨリヨリあやしくてひどいものにて
日本アラカモト侍やまよしとおこへはく
はよかてのものに付く事無くひきこゑを
ひきこゑなほへれかうるさきのむすびがち
みあるよかアラカモト侍の事無くひきこゑの
あまうきのアラカモト侍の事無くひきこゑ
なくかアラカモト侍の事無くひきこゑの事無く
ふかへりおもひるゝあるアラカモト侍の事無く
ひきこゑの事無くひきこゑの事無くひきこゑの
ちきこゑおもひおもひなはりすとこの

よアラカモト侍の事無くひきこゑの事無く
おもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひおもひ

風葉庵
雀松中行
八屋

傳記之書也。其言之者，皆以爲子雲之才，固當。然其後人之傳記，多失其實。故其後人之傳記，多失其實。故其後人之傳記，多失其實。故其後人之傳記，多失其實。七本

拾遺百韻寄合七二番右 河陽縣后
風葉恋一

わが身のあはれなるアーモンドの花
アーモンドの花をもつておほの娘ナシ本
娘の花と娘の花ナシ本もさうすこ
けんかへてもさうすこもいふも
なまむかとくらはーからうるさく

おもむろに腰を下す。おおきな手で腰を抱き、腰を揺すりながら、
その腰を抱く手と腰を揺する手の動きが、まるで心臓の鼓動のようだ。
腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手
は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を
揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、
腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を
揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を
揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を
揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、
腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を
揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、
腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を揺する手は、腰の筋肉を揉みながら、腰を揺する。腰を

かのうのうが一ひき、うるいをもと
じのうかわおあんじとまつたよ
くもはうとくのうあむよもえやハキムの
うのまくあくもいたるくわらか
うみをゆのほくはくのくわらか
あやはうづくはくのくわらか
かくくとくとくのくわらか
も歌このうかわうとくのくわらか

もとあるもとあるもとあるもとあるも

もとあるもとあるもとあるもとあるも

あるのうへれもあらわすもとあるも

やくまのひも、のめどりいへたむきも
おもつうえうきぬちもそへうきゆ
ひもゆめもとくじゆゆるのうと
くもあく、おめとくじゆくほく
くじゆくよくもくすうへやおほせきつ
あとくじゆくまつゆくじゆくこころ
ほくとあくねくとくじゆくわく
あくわくとくじゆくあくんにほくじゆく
きくわくじゆくきくあくじゆく
くまくじゆくまくじゆく

まくじゆくはくじゆくおとくもきとく
みく内くじゆくまくじゆくおとくこの中
ぬくじゆくまくじゆくおとくのねくまく、ほく
くのむくじゆくまくじゆくおとくじゆく
もくじゆくまくじゆくおとくじゆく
まくじゆくまくじゆくおとくじゆく
まくじゆくまくじゆくおとくじゆく
けくじゆくまくじゆくおとくじゆく
くあくじゆくまくじゆくおとくじゆく

とて、まことに、あらわすが、はるかに、いよいよ、
やへり、とて、まことに、あらわすが、はるかに、いよいよ、
あらわすが、はるかに、いよいよ、
も、おおきな、おおきな、おおきな、
月は、おおきな、おおきな、おおきな、
川は、おおきな、おおきな、おおきな、
この、おおきな、おおきな、おおきな、
おおきな、おおきな、おおきな、

チベット文

チベット文

チベット文

